

平成27年度第3回栗原市総合教育会議議事録

1 招集日時 平成28年3月17日(木) 午後3時00分

2 招集場所 栗原市役所 講堂

3 出席構成員

栗原市長 佐藤 勇

教育委員長 佐々木 一彦 教育委員長職務代理者 白鳥 正文

教育委員 笠間 八十公 教育委員 早坂 留美

教育長 亀井 芳光

(欠席者なし)

4 説明等のため出席した者

教育部長 鈴木 正弘 教育部次長 菅原 昭憲

教育部次長 白鳥 智之 教育総務課長 高橋 喜美男

学校教育課長 加藤 栄悦 学校教育課副参事 高橋 伸

社会教育課長 千葉 正一 文化財保護課長 高橋 久悦

総務部総務課長 小松 弘幸

5 事務局職員

教育総務課長補佐 白鳥 明美 教育総務課主幹兼係長 大江 昌美

6 開 会

午後3時00分

教育総務課長 定刻でございます。皆様ご起立願います。只今から、第3回栗原市総合教育会議を開催いたします。

一同「礼」

御着席ください。佐藤市長より挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

7 市長挨拶

佐藤市長 本日は、お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

総合教育会議も第3回ということで、これまでも教育大綱策定についての協議や調整を行う中で、共に取り組むテーマも具体的に見えてきたところであります。是非、こうした良好な関係をこれからもしっかりと築いていきたいと思っております。

さて、合併10周年アニバーサリーイヤーである今年度も終盤を迎えました。4月から始まる平成28年度は新しい一歩を踏み出し、次なる10年への挑戦がはじまります。今、地方創生を進めていく上で、未来の栗原市を担う子どもたちへのサポートは極めて重要なテーマであります。28年度においても、市内全域の幼稚園で3年保育の実現や給食の提供など、子育て支援や教育に重点を置いた予算を編成したところであります。

本日は、一年間を締めくくる総括として今年度を振り返り、また、教育大綱実現に向けた次

年度の教育展開について意見交換を行いたいと思います。委員の皆様からは、是非、率直なご意見をいただければ幸いです。

一昨日は、築館中学校で恒例行事となっていますが、今年は中学1年生129人と市長との意見交換会をさせていただきました。あつという間の10年と思っていましたが、合併当時3歳だった子どもたちが今や13歳です。10年というのはいかに長いか、驚きました。意見交換して、私から質問しました。「栗原市は何町村が合併して出来たか分かりますか。手を挙げてください。」と言ったら、誰も手を挙げないんですね。クラス委員さんですかね、仕方なく立って発表したんですが、7つしか出てこないんです。正に、栗原市という名前が定着したのかなと思いつつも、何かさみしさを感じました。栗原の次なる未来というのは君たちに託しているんだ、今しかチャンスはないからしっかりと次のポイントを目指して、何になるか、どうすればいいのか考え、しっかり勉強してほしいという願いからスタートした意見交換です。毎年やれることに幸せを感じながら、出来れば教育部の皆さんにもご協力をいただいて、中学生との意見交換の場を持つこともひとつのこれからの課題かなと感じました。

今日はどうもありがとうございます。よろしくお願ひします。

8 議事

教育総務課長 ありがとうございます。栗原市総合教育会議運営要綱第3条により、市長に議長となつていただき、議事を進行していただきたいと思ひます。

佐藤市長よろしくお願ひいたします。

佐藤市長 それでは、次第に従つて進めてまいります。皆様よろしくお願ひいたします。

議題（1）「教育大綱の実現に向けての協議について」説明をお願いします。

教育総務課長 それでは、「教育大綱の実現に向けての協議について」今年度取組状況及び次年度の教育展開についてですが、まず、今年度取組状況からご説明いたします。

資料1をご覧ください。教育大綱に掲げました基本方針・基本目標の達成のために、今年度の具体的施策を一覧にしたものです。教育大綱におきまして「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を活用して、施策の評価及び進捗管理を行うこととしてございますので、この様式を使用して作成したものでございます。ただし、施策の評価や達成度等につきましてはただいま検討中のため掲載しておりませんのでご了承願ひたいと思ひます。

主な事業について、ご説明いたします。

1 ページをご覧ください。「少人数指導事業」です。中学校において、教科の少人数指導を実施するため、少人数指導教諭を4人採用の予定でしたが、3人となり、数学・英語の教諭が採用できませんでした。成果としては、生徒一人一人の学習状況の把握が確実になり、適切に指導ができたなどの声が聞かれ、グループ学習では、生徒個々の考えや疑問に対応した授業づくりができました。

2 ページをご覧ください。「学校活性化プラン事業」です。通常学級や特別支援学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒について補助員を配置したことにより、児童生徒の学校生活における安全の確保と生活指導に効果があり、クラス全体が落ち着いた環境で学習ができるようになりました。配置については、小学校11校に25人、中学校5校に6人です。

3 ページをご覧ください。「栗原市立学校再編計画に基づく学校再編」ですが、栗原市立学校再編計画に基づき、築館地区小学校4校による再編を提案し、平成27年4月に富野小学校が学区の組換えにより先行再編を行い、宮野小学校については再編反対の意向であることから、

残る対象校である玉沢小学校と築館小学校の合意形成を整え、玉沢小学校が希望する平成29年4月の再編に向け準備委員会を設立しました。中学校再編については、高清水中学校と瀬峰中学校の再編を提案しており、早期の再編合意に向け説明会及び意見交換会を行ったところ、両校のPTA役員からは、再編に前向きな意見をいただいております。

4ページをご覧ください。「幼保一体化施設整備事業」です。築館地区の幼稚園再編の施設整備を行い、平成27年4月から3年保育を実施しております。また、平成28年4月からの幼稚園3年保育の完全実施に向け、栗駒・志波姫両地区については、幼保一体の施設整備を行い、若柳・一迫地区においては、改修・増築等の施設整備を行い、瀬峰地区においては施設整備に伴う建設・敷地造成設計に着手しました。

5ページをご覧ください。「幼稚園預かり保育事業」です。幼稚園預かり保育については、年々利用者が増加しており、築館幼稚園でも3歳児からの預かり保育を実施しました。また、預かり保育料について、平成27年度より同時入園の第2子以降については無料とし保護者の経済的負担の軽減を図っております。

6ページをご覧ください。「教育研究センター事業」です。市内小・中学校で算数・数学において、教科指導に当たる全教員対象に「授業づくりにおける課題」調査を行い、その結果に基づいて研修会を実施しました。その結果、受講者から肯定的評価を得、講師にも研修会後の受講者の悩み等に応じてもらい、双方向的で継続的な研修ができました。また、平成28年度からの市内全幼稚園での3年保育開始に向け、幼稚園教諭対象の研修会を充実させ、参加者から高い評価を得ております。

7ページをご覧ください。「Q-U調査（学級生活満足度尺度調査）」です。市内全ての小・中学校で年2回（5月・11月）実施し、結果については表のとおりです。それを受け、教育研究センターでの集合研修会や小・中学校各1校への出前研修会を実施し普及を図りました。小・中学校ともに全国平均に比べ、「満足群」の割合が高い結果で、おおむね各校において、調査結果を生かした望ましい学級集団づくりが行われたことがうかがえました。なお、「要支援群」の割合は、依然4～6%あり、面談や全校体制での見守り、声掛け等が必要であると思っております。

8ページをご覧ください。「学力向上支援事業」です。長期休業中や放課後などの学習会に、小学校9校、中学校2校に支援を行いました。また、栗原市独自の標準学力テストを実施し、どの分野が劣っているのかの分析を行い、その結果を各学校に周知し、分かる授業と学びたくなる授業づくりに活かしました。

9ページをご覧ください。「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」です。今年度は、送迎バスを運行したところ、児童生徒の参加者数が大幅に伸び、中学校の冬の学府くりはら塾では、昨年度に比べ3倍となっております。また、学習会等では、参加した児童生徒が、自分で立てためあてを達成しようと、自主学习や思考力を高めるプリント問題に集中して取り組むことができ、参加した児童生徒からは、「とても分かりやすかった」「しっかり復習できた」などの感想がありました。

10ページをご覧ください。「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」です。小学校英語活動については、ノンJETのALT4人と中学校に配置しているJETプログラムのALT3人を活用し、英語活動を実施しました。夏季休業中には、「英語でチャレンジ」や「英語でキャンプ」、留学生との交流事業を実施し、児童からは、楽しく活動ができ英語が好きになったなどの感想が聞かれました。また、小・中学校英語研修会では、金成

小中学校で実施している「国際キャリア科」の授業風景や講演等を聞き、具体的な実践活動を学ぶことで、今後の英語活動への指導の在り方についての方向性を示すことができました。

11 ページをご覧ください。「防災主任研修会」です。栗原市教育委員会で2回研修会を開催しております。法的な根拠を明確にしながら、防災主任としての基礎的な知識と地域連携のポイントについて具体的に例を挙げながらの講話と、みやぎ防災教育副読本を活用した授業提供と今年度の取組の概要についての発表をもとに、研究協議を行いました。副読本の活用の具体と地域との連携のポイント等について学ぶことができ、来年度は各校での実践をさらに進めていけるよう支援していきたいと思っております。

12 ページをご覧ください。「地域と連携した避難訓練の推進」です。全ての幼稚園で防災マニュアルの見直しが行われ、市内全ての幼稚園で、警察署や消防署等の関係機関と連携しての避難訓練や、絵本や紙芝居などを活用しての防災教育に取り組みました。地域との連携については、合同の避難訓練を3園において実施しております。

13 ページをご覧ください。「栗原市いじめ防止基本方針に基づく対応」です。各校においては、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」の定義への認識を再確認し、いじめの訴えや様子が見られた時には、「いじめ問題対策委員会」を開催し、情報共有の上で対策を立てるという認識が浸透してきております。教育委員会においては、栗原市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催し、関係機関との連携を取りながら、いじめ防止に関する情報を共有しました。「栗原市いじめ防止対策調査委員会」では、昨年度発生した市内中学生の不慮の事故に係る調査とその報告書の作成を第25回までの開催の中で行い、10月に終了しております。その後の調査委員会では、栗原市内小・中学校のいじめ防止や対策に関する現状と今後の取組等について、提言をいただき、その提言に基づき、1月28日には、市内幼稚園長、小・中学校長を対象とした「重大事案発生時における対応等に関する研修会」を開催しております。

14 ページをご覧ください。「問題を抱える子ども等の自立支援事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」です。「問題を抱える子ども等の自立支援事業」として、2名の相談員が関係機関と連携を取りながら、小・中学校各1校において学習支援等を行いました。「スクールソーシャルワーカー活用事業」として、1名のスクールソーシャルワーカーが8校11名の児童生徒と家庭に関わり、学校復帰や家庭内の問題解決に向けた取組を学校や関係機関と連携しながら支援を行い、市内小・中学校への訪問や、ケース会議等を通して、各校の実態と課題について把握するとともに、今後の取組について協議を行っております。

15 ページをご覧ください。「志教育支援事業」です。栗原西中学校区が県の「志教育支援事業」の指定を受け、異校種連携、地域連携を特色として取り組み、志の高い児童・生徒の育成に寄与することができました。なお、県の研究指定校としての「志教育支援事業」は、今年度で終了しますが、小・中学校においてこれまで培ってきた取組を継続し、市内全域に広げていきたいと思っております。

16 ページをご覧ください。「教育相談員」「適応指導教室事業」です。教育相談員や在学青少年指導員を配置し、各小・中学校の不登校児童生徒の状況を把握、適切な支援体制の確立に努めることができました。今年度は不登校児童生徒の学校復帰につなげるために、規則正しい生活リズムの定着をめざして通所日を学校と同様の月曜日から金曜日までの週5日間としました。適応指導教室の入所状況については、2小学校から2人、6中学校から12人が通級し、中学生2人が学校復帰を果たし、その他の小中学生も通学回数を増やすことができました。なお、適応指導教室に入所していた中学校3年生の2人は、希望どおりの高校に進学することができ

ました。

17 ページをご覧ください。「全国体力・運動能力調査の結果分析」です。取り組みと成果の欄に記載のように、結果分析を行い各学校に伝達することで課題解決を図るよう働きかけました。

18 ページをご覧ください。「家庭教育学級」です。幼児、児童の保護者を対象とした学習機会を提供するため、講師派遣の支援を行いました。保育所開催は増えたものの、結果的に幼稚園、小学校での開催は減少し、中学校においては、開催の希望がありませんでした。

19 ページをご覧ください。「ブックスタート事業」です。3～4か月児健診の際に、読み聞かせボランティアと職員で絵本の読み聞かせを行い、絵本を手渡し、絵本を介して親子がふれあうきっかけを作り、読書の大切さを伝えることができました。また、フォローアップ事業として赤ちゃん向けおはなし会を行い、さらに今年度は10～11か月児育児相談での絵本の読み聞かせも行っております。

20 ページをご覧ください。「ジュニアリーダー育成事業・派遣事業」です。地域少年団の育成と活動の支援を図るため、ジュニア・リーダーを各種研修へ参加させ、プログラム作成や安全管理能力などの技術向上を図り、次代を担うリーダーとしての育成が図られました。そして、少年体験活動の支援を図るため、子ども会や地域活動への派遣を行いました。また、「ジュニア・リーダーフェスティバル」を開催し、企画、準備を行うなど、主体的な活動につなげることができました。

21 ページをご覧ください。「少年体験教室」「青少年育成団体との連携・育成者の支援」です。青少年を対象とした事業を開催し、様々な遊びや体験活動、人との関わりを通し、豊かな心を育むと共に自主性や協調性を養い、青少年の成長過程での情操教育の一端となり、事業運営にジュニア・リーダーやシニアリーダーを関わらせ、異年齢集団による交流を図ることができました。

22 ページをご覧ください。「シニアセミナー」「レディースカレッジ」です。ライフステージ、市民ニーズに合わせた事業を各教育センター、各施設ごとに実施しました。

23 ページをご覧ください。「図書館まつり」です。今年度は1日の開催とし、各種ボランティア団体と連携しながら、親子で楽しめるイベントを開催しました。普段図書館を利用しない市民に、図書館を身近に感じてもらう良い機会となりました。

24 ページをご覧ください。「協働教育推進事業」です。家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するための事業を実施しました。地域住民における協働教育の意義と重要性への理解を深めることができました。

25 ページをご覧ください。「青空大使派遣事業」です。市内在住の中学2年生を対象に、オーストラリアでの海外研修を実施し、20人が参加しました。国内研修を7回、海外研修を6泊7日で実施し、参加した先輩から後輩へ事業の良さを伝えるなど、事業継続の効果が表れ、具体的な目標を持つなど、長期的な将来設計をすることができる生徒もいました。今後の目標としては、学校での発表が出来なかったため、各学校での体験発表の場を設定するよう働きかけを行ってまいりたいと思います。

26 ページをご覧ください。「見てけらいん美術展ほか各種展覧会」「音楽アウトリーチほか各種芸術鑑賞会」です。市内外の絵画や書道などの作品展を開催し、優れた文化芸術に触れる機会の充実を図ることができました。また、市民芸術祭や講演会など合併10周年記念事業を実施し、活動を発表する機会や学びの機会を市民に提供し文化芸術の推進を図ることができまし

た。

27 ページをご覧ください。「埋蔵文化財発掘調査事業」です。埋蔵文化財包蔵地における開発行為等に伴う協議や指導等、瀬峰地区幼保一体施設建設に伴う清水山Ⅰ遺跡発掘調査、伊治城跡発掘調査を実施し、遺跡の解明、保存又は記録保存を行いました。また、清水山Ⅰ遺跡、史跡伊治城跡の発掘調査現地説明会を開催し、文化財の啓蒙を図っております。

28 ページをご覧ください。「歴史・文化の継承支援及び伝統芸能活動支援事業」です。伝統技術や民俗芸能を継承する団体や個人並びに史跡・天然記念物等の保護活動を行う個人・団体に対し、担い手の育成のために必要な用具の購入費や、教室・講習会・発表会を行う会場使用料などの負担軽減のため、補助金を交付し、伝承活動を支援しました。

29 ページをご覧ください。「栗原市小学生陸上競技交流大会ほか各種大会」です。各種大会等を開催することにより、参加者の健康増進及び体力向上が図られました。今年度は、新たに（公財）日本陸上競技連盟の公認を取得した栗原市ハーフマラソンコースを会場に、「第1回栗原ハーフマラソン大会」を開催しました。開催地区の方々や各種団体の協力により大会を運営することができ、「する」楽しさだけでなく「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを意識づけることができました。市外からも多くの皆さんに来市していただき、地域の活性化とスポーツ交流人口の拡大につながりました。

30 ページをご覧ください。「宮城ヘルシー2015 ふるさとスポーツ祭栗原地区大会」です。子どもから高齢者まで多くの方々が気軽に、楽しく参加できるよう種目を創意工夫し、栗原地域の特徴を生かした一大スポーツ・レクリエーションの祭典として開催いたしました。

以上で、今年度の主要な事業の取組状況の説明を終わります。

佐藤市長 只今事務局から説明がありました。全てできましたという報告に疑問を感じながら聞いておりました。皆さんからご意見、ご質問等ございませんか。

亀井教育長 この中で生徒指導関係であります。今年度、いじめや不登校対策でいろいろな施策を取ってきてその成果はどうだったかということで調べてみたところでございます。不登校につきましては、定義が年間30日以上欠席であります。小学校では、1年生の時から全く登校していない子が1名いまして、その子を含め19名、中学校では56名であります。この辺につきましてはやはり次年度の課題としてもっとフォローアップしていく必要があると感じております。いじめにつきましては、今些細なものでも全て報告するようにさせておりましたが、現在のところ小学校で実質10件であります。ただこれにつきましては解決しているとの報告を受けております。中学校においては13件ございましたが、同一案件もありますので実質7件あります。小学校より少ないという現状になっておりますが、これにつきましても、とにかくいじめは許されないものであるということ、今後とも徹底して学校でも指導に当たるようにしていきたいと思っておりますし、いじめ対策の各組織がございまして、これまでの反省を踏まえて、それを活用しながら事件発生の防止に努めていきたいと思っております。

佐藤市長 他に、委員さん方からございませんか。

佐々木委員長 感想であります。6ページに教育研究センター事業があります。立派な研究センターをつくっていただいて開始から軌道に乗っているのかと思っております。この研修の中で幼稚園の研修がいくつかあります。これまで、幼稚園の先生方が研修する機会が非常に少なかったのですが、この、市の独自のセンターが出来たおかげで幼稚園の先生方の研修がこのように組めるようになったということで、受講者の話を聞いても教員の意識改革につながる方向にあるということで非常に良かったなと思っております。いろいろな年齢層を繰り返し研修していくような

長期プランを持ってほしいと思います。それから、もう一つは、28年度以降については、やはり市のセンターでありますので、市の教育課題に特化したものを重点的にやってもらいたいなと思うのですが、一つは、学力向上ということで、教員の指導力向上、これはいろいろ全体枠をみますと入っているんですが、もう一つは、英語教育の充実が栗原の課題のひとつではないかと考えております。小学校に英語の教科が入りますし、中学校の教員採用時に英検準1級が必要と言われているわけですが、実際に中学校の英語を担当している方のレベルをみますと、過去に採用されている方もいますのでなかなか達していない、そういうことを考えると、やはりこの英語教育に関わる小学校の教員、中学校の先生方に関わる研修枠というのを少し多く持ってもらいたいと思います。講師も、少しお金を出しても有能な方を呼んでいただいて研修する、それが次の授業に生きていくんですね。そういうコマを多く増やした構成にして、研修センターの持ち味というのを出していただきたい、そういう風に考えております。

笠間委員 英語教育に関連しての感想ですが、ALTの先生方がせっかくいらっしゃるので、合併する前は各市町村が広報誌で今度中学校にこういうALTの先生がいらっしゃいました、というような紹介があつて、先生たちも毎月文章を寄せていたりして、町で見かけることも多くあったんですね。町で見かけると、私はつつい声を掛けたりしていたんですが、生徒さんたちも、例えば学校の授業だけでなく、親も引き込んで、町であつた時に親も声を掛けられるとかありました。今は誰が来ているのかなかなかわからないし、接する機会もないと思うんですね。例えばちょっとした機会があればALTの先生を家の夕食に呼んでとか、親御さんたちも楽しければ、「今度青空大使でオーストラリアに行ってみたら」とか出るかもしれない。今回定員ぎりぎりだったりで、もうちょっとALTの先生たちが市民の人たちの中で見える形を、前みたいにとつた方がいいんじゃないかなとすごく思います。授業だけでなく、やはりコミュニケーション、日本語でのコミュニケーションが出来ないと英語でのコミュニケーションも出来ないと思うので、英語だけでなく、コミュニケーションという立場から見て、せっかく来ているので、もうちょっと生かした方がいいんじゃないかなとっております。

それから、先ほど教育研究センターの話で、幼稚園の先生たちから高い評価を得たということが書いてあつたんですけども、実際どういう内容かわからないんですが、そういう講習会が実際にどのように反映されたかというのを教育委員会の方にフィードバックすることであるんでしょうか。それが、ひとつお聞きしたい点です。

それから、16ページのけやき教室ですが、今さらなんですけど、今回生活リズムの定着を目指して月曜日から金曜日までにしたって書いてありましたが、逆に、今までどうして火曜日からだったのかなというのが疑問です。

もうひとつですが、隣のページのダンスについてですが、「ダンスについては男女とも充実感を味わっているとは言い難い。」とありましたけども、これは「よさこい」関係が多いと前に伺つたんですが、実際どのようなダンスを取り入れているのか、場合によっては子どもたちはエグザイルとかそういうのが好きだと思うので、もう少し種類を考えてみる必要があつたりしないでしょうか。学校の先生もそれなりに練習したりしなければいけないのかなとっておりますが、ダンスの種類などについてもお聞きしたいと思つた。

佐藤市長 とりあえず、ここで、佐々木委員長と笠間委員の質問についての回答をお願いします。

学校教育課長 それでは、私の方からお答えいたします。最初に、委員長さんからございました幼稚園の研修でございますが、平成27年度は、管理職研修会、初任者市費教諭研修会、学校補助員研修会、幼稚園主任・学年主任研修会、少人数指導・非常勤職員・非常勤教諭研修会、新任園長研

修会、幼稚園研究主任研修会と、新任幼稚園教諭・新任保育士研修会は今年初めてやりましたが、幼稚園教諭と保育士を対象とした研修会でございます。それから、幼稚園5年経過の教員研修会については主に教育研究センターの特任教授が講師となって、管理者研修会、初任者研修会等については大学教授等を講師として実施したところでございます。これらの反省を踏まえまして先に開催しました平成28年度事業計画の検討におきましても、平成28年度は学びの土台作りに向けた研修会ということで、幼稚園の研修については、6つの研修メインで行っていくということで、こちらは悉皆研修ということで全ての教諭対象に行っていくということで考えてございます。

2点目の英語教育の関係でございますが、学力向上に向けた授業づくり研修会ということで、平成27年度は算数・数学に特化した研修会を行ったところでありますが、来年度は、算数・数学に加え、外国語活動・英語研修会ということで、こちらについても2コマ設けまして、教育研究センターでの研修会、市内小・中学校での研修会というものを計画しているところでございます。

それから、笠間委員さんの方からALTの活用ということでございますが、現在市の方では、小学校にJETプログラムによらない民間業者委託によるALTが4名、それからJETプログラムによるALTが8名の12名が居るわけでございます。先日、業者選定のプロポーザルの会議がございまして、その際、委託の関係でございますのでなかなかプライベートの面で問題はあるかとは思いますが、私の方からは是非地域の中で活動を行ってほしいということをお社からも呼びかけていただきたいということをお伝えしているところでございます。JET青年についても各学校を通じまして、地域に対して溶け込んでいただきたいということで、プライベートな関係で、外国青年個人個人の性格等もあるかと思いますが、なるべく地域との関わりを持っていただきたいというような考えは学校教育課の方でも持っているところでございます。

それから、教育研究センターの幼稚園の研修の評価につきましては、先ほど委員長さんのご質問についてお答えした通りでございます。

次に、けやき教室についてでございます。今年度から月曜日から金曜日までということでございまして、やはり不登校の子どもさんは生活習慣の乱れといったようなものが不登校の原因になっているというところでございます。そういったことから、今年度は月曜日から金曜日までの時間帯で1週間を通じた中で学校に復帰できるような生活習慣づくりといったようなことで行ったところでございます。次年度は、補助員を1名増員する予算を取りまして、現在在学青少年指導員が2名、それから、市で雇用している補助員が1名、県から派遣されております補助員が1名でございますが、市費単独で補助員の賃金の増額を行ったところでございます。そういったことでけやき教室の充実を図っていきたいということでございます。

ダンスの件は高橋副参事から申し上げます。

高橋副参事 学校教育課の高橋と申します。ダンスについてでございますが、中学校の先生方の授業を私もいくつか拝見させていただきました。どの授業もそこに示されているとおり非常に工夫された授業が為されておりまして、これは子どもたちへの質問手法によって得られたデータの結果から分析したものでございます。それで、いろいろな結果については非常に良好だったんですが、ダンスにつきましては、新しい学習指導要領になりまして、いわゆるヒップホップダンスというのが入ってまいりました。その指導法については、子どもたちも経験が少ない中で、いきなり自分たちで考えてみなさいという授業をされると、子どもたちもどのように進めてい

たらしいのか分からないことがある、それで、3年間を見通した中で、例えば1年生の時には、曲の区切りはこうだよとか、主な3つの動きを組み合わせでダンスを創ってみなさいとか、いわゆる基本的なところをまずやって、そこから少しずつ自分たちの工夫を入れていけるような授業展開が必要なのかなということ、わたしも授業を見せていただいたときに、そのようなことをお話しさせていただいたところでした。なので、これからですね、その辺りは各中学校の先生方同士で研究が進んでいくだろうと考えておりました。私共も指導の機会がありましたら、そういった点を指導してまいりたいと思っております。

学校教育課長 補足でございます。先ほどの、今年度からけやき教室が月曜日から始まったということでございますが、昨年度までの考え方といたしましては、月曜日、週に1回は学校に登校するような形で学校復帰を促していきたいとの考え方で、これまで1日登校できる日を設定していたという経緯でございます。

亀井教育長 私の方から少し補足させていただきます。第1点目の英語教育の充実について、これは当然だと思います。今度小学校でも英語が教科として入ってくるということになりますので、その準備として、やはり指導者というのが非常に問題になるわけです。そういう意味では、これに力を入れていかないとならないという考えで、今後センター事業のみならず、講師を招へいした事業をやっていく必要があると思っております。

それから、ALTの件については、たしかに委員さんおっしゃる通りコミュニケーションが足りないなあという感じはしました。例えば、広報の「教育の窓」のページがございますが、そこで紹介するという方法もあるでしょうし、何かの形で紹介しながらコミュニケーションを図れるような、地域の一員として動けるような環境をこちらで作ってやらなければならないと思っておりますので、その辺工夫していきたいと思っております。

それから、けやき教室ですが、学校教育課長が話した通りであります。これは一番最初に県で立ち上げて、ずっと月曜日休みで週4日でやっていたんですね。それを受け継いで、市としても同じようにやってきました。遡ってみると委員長さんの方が詳しいかもしれませんが、出来た当時は連休明けというのはなかなか子どもが出てこないんだということもあり、1日様子を見て、ということもあったのだと思いますが、それではだめだと、やはり栗原市としては週5日間という形でやっというということで、これは、市長に感謝申し上げたいのですが、教育に関しましてはいろいろな面で予算を配慮していただいております。とにかくそういう子に目を向けた教育も必要でないかということで、そのようにしたわけです。

ダンスについては、昔だとフォークダンスみたいなのがダンスでしたけど、今は表現なんですね。自分で表現を考え、創作をする、というような内容になってきていますので、これも時間が非常にかかるということもあって、先生方もあまり得意ではないということもあるようです。子どもたちは、時間をかけると、自分なりに創っていくようですので、これも慣れてくれば大丈夫かと思っております。この分野は必ず体育の時間に独立しなければいけませんので、小学校もそうなんです、必ず取り入れる形はとっているところでございます。

今年度の反省としては、委員さん方が学校訪問をする機会を取れなくて申し訳なかったというのが本音であります。そのために、今日の資料の中に年間行事計画を入れさせていただきました。この中には指導主事訪問の予定も入っていると思っております。そして、反省を踏まえまして、毎月今度の事業ということで委員さん方に示すような体制を取っていますので、今日行ってみたいという時には、一緒に行ってみるような体制を整えていきたいと思っておりますので、遠慮なくお話ししていただきたいと思っております。やはり、実際に学校などの現場を見ないとかな

か様子がわからないということもあると思いますので、今後はその辺配慮していきたいと思っております。

佐藤市長 確認ですが、新しい学校給食センター等は教育委員の皆様に見ていただいたんですか。

亀井教育長 今度の23日に教育委員会がありますので、その終了後に見に行くことにしています。

佐藤市長 幼稚園もですね。

亀井教育長 そのとおりであります。

佐々木委員長 英語についてですが、課長さんからは来年研修を2回やるということでしたが、「教育研究センターでやるのがたくさんある中でこれだけにということとはなかなか出来ない」ということも分かりますが、この際、発想の転換をして、英語に特化してやるのであれば、他とのバランスを考えないで、2ヶ月に1回、3ヶ月に1回くらいでシリーズとして継続してやるとか、そういう風な取組みをやらないと、なかなか目指す成果は出ないのかなと思うんですね。皆平均的にやるのではなくて、市の特に大切な教育課題に特化して、重点的にやっていく、そういうものを期待したいと思って先ほど発言しました。

佐藤市長 それに対してお願いします。

白鳥次長 委員長さんおっしゃる通りでございまして、教育課題に対して特化した事業施策をというところでやっていきたいと考えております。来年度のセンター直接事業ではないんですが、志波姫小学校・中学校、志波姫地区が英語教育推進事業の県指定を受ける予定でございまして、小中学校連携した英語教育の取り組みをステップにしまして、それを市内の他の学校にも広めて新たに取り組んでいくということを考えております。それから、今年度から既にやっているんですが、宮教大との連携事業ということで教員向けの英語教育に関する研修を実施しておりますし、来年度もセンター主導で実施するというところで計画をしているところでございます。

学校教育課長 市の教育課題に対応した研修の在り方ということで、直接英語とは関係ないのですが、教育研究センターの方で平成28年度にICTの研修を開催することを計画してございます。今年度中学校の方にタブレットパソコンが入りまして、小学校には平成28年度にタブレットパソコンが入ります。ICT環境が整うということでございまして、それらを生かすため、先生方の資質を高めるための研修会を開催していきたいと考えてございます。

佐藤市長 関連してですが、先ほど教育長がこれから小学校でも英語が必修となると言っていました、文科省の指導では何年スタートですか。

白鳥次長 平成32年になります。

佐藤市長 32年完全実施ですか。栗原市はいつを目指すのですか。前倒しで早めにやらないのですか。委員長さんが言ったのは文科省に合わせて実施では遅いという話でないですか。ほかのところより2歩も3歩も前に出なさいということを言っていると思うんですが、どうも受け身の答えばかりでピンとこないですね。教育長の考えはどうですか。

亀井教育長 学習指導要領が変わりますので、当然正式には32年という運びになると思います。ただその前に試行期間があります。それに合わせてやっていかないと間に合わないということになりますので、28、29この2年間をきちんとやった形で30年頃から先取りしてやっていこうと思います。

佐藤市長 32年まではあと4年ありますが、その前に前倒しでどこまでできるかということですね。英語だけですか。

亀井教育長 道徳も教科化が入ってきますので、大きく変わるのがその2点になります。

佐藤市長 文科省の指導の件は委員の皆さんは理解されているんですね。

笠間委員 英語教育なんです、小学校はテストがないので英語は楽しいという授業をしていると思うんですが、中学に入ると、いきなり筆記試験があるというので英語嫌が増えるということを知ったことがあります。今、市長が前倒しとおっしゃいましたが、中でも、いい成績が取れると英語って楽しいと思うだろうと思うんです。だから、小学校で楽しいだけの雰囲気味わうだけでなく、強制はしませんけども、やはりローマ字を書けたりとかすると中学校に行くと楽だと思えます。そういう意味でのある程度の前倒しをしておくともスムーズに、小学校では試験はありませんが、教えて覚えると絶対楽だと思うんです。自分が出来ると、もっと点数取りたいと思うでしょうし、特に男の子の方が英語嫌が多いようなイメージがあります。決められたことをやるのではなくて、そういう工夫は必要でないかと思えます。

亀井教育長 英語活動ですが、小学校は今の場合は書くことがないわけですが、教科化になると書く活動も入ってくるようでもあります。やはりそれができないと、中学校に行ったときにスムーズな移行が出来ないし、小学校3、4年生からきちんとやっておくことが大切でしょうし、その辺を踏まえながらやっていきたいと思えます。

笠間委員 教科として始まる前の子どもたちにやっておかないと思えます。

亀井教育長 しゃべれるけども、書けないというのが出てくる危険性がありますので、その辺も踏まえながらバランスのいい指導をしていかなければと思えます。

佐藤市長 夏季の合宿の時に、画期的なことをしたのは、塾の先生と一緒に教えてくれた、それを取り入れたということは一歩前に進んでということですよ。さらに、宮教大ももちろんですが、他からの支援をもらえる、画期的なことをしていると私は思っているんですよ。だから、もう1歩前に進んで、英語に対して栗原市はこう掲げるんだという前向きな創案的なものを出していかれたらどうかと思えます。小学校で九九は覚えますが、あるインド人の方と話をしましたら、インドでは2桁九九をやっているんですよ。当然ノーベル賞も当たり前で出てくるわけです。よく聞くと今度は韓国でもやっているんです。日本だけが従来通りです。だから国際的なものを見ながら、学校教育は基礎ですからきちんとやってもらいたい。英語と数学は最低限やる、それぐらいの教育理念を持って努力してください。もちろん歴史と国語は大切ですよ。それも勉強してもらいたいですね。では次にお2人どうぞ。

白鳥委員 最初に6ページの教育研究センター事業ですが、研修会の実績ということで、特に下段の指導力向上に向けた職務別研修ということで参加人数がありますが、これにつきましては、任意の参加なのか、例えば都合が悪くて参加できなかった先生方については別の日に研修をしているのか、やはりこれは大切なことなので、全員に研修を受けてもらうということで実施すべきではないか、そういうところをお聞きしたいのと、7ページのQ-U調査ですが、下に結果表がありますが、不満足群ということで、小学校、中学校で1割以上、13%が不満足のようなのですが、その中身について、何が不満足なのかというデータがあれば教えていただきたいと思えます。先生との関係なのか、友達との関係なのか、授業なのか。そこを把握していないと解決に向けた取り組みが出来ないのではないかと感じました。それから、8ページですが、学力向上のテストで、不得意なところが見えてくるんですが、どのような対策を取っているのか、応用問題が不得意というデータが出ていますが、それに対して各学校できちんと対策を取っているのか、その辺を掘り下げて聞いてみたいと思えましたので、よろしくお願ひします。

早坂委員 私はこの資料に沿ったことではなくて、全体的な話と今皆さんがおっしゃっていたことを踏まえて、私なりの感想を少しお話ししたいと思えます。まず、不登校児童について、私の娘の学年にも残念ながらいらっしゃいました。卒業式は市長さんに来ていただいて子どもたち喜ん

でいたのですが、卒業式には皆揃って卒業することが出来て本当に良かったなあと思うんですけど、やはり先ほどちょっとお話にあったように、生活習慣の乱れということが原因で学校に行きたくない、めんどくさい、行かないうちにどんどん友達から孤立してしまうので、やはりその繰り返しで、特に長い休みの後、夏休み、冬休みの後は学校に来ないというお子さんが多いそうです。いじめが原因で来ないというお子さんではなく、生活習慣の乱れで学校に足が向かないというお子さんが多いということを娘からも聞いておりました。

それから、学府くりはら、一生懸命栗原市でがんばっている課題のひとつです。子どもたちは、先生方によって、勉強に興味を持てるような先生と、授業を受けるが苦痛に感じる先生がいらっしゃって、悪口を言うわけではないんですが、子どもたちにすごく一生懸命に向き合ってくくださる先生だと、やはり子どもたちの学力も伸びますし、特に英語というのは苦手な子が多くて、ALTの先生と普通の先生と2人いらっしゃって英語の授業を進めていただいておりますけど、3年間、娘が英語の授業を受けた時の2年生の時に授業参観で英語の授業を見ることが出来たんですが、その時は講師の先生だったんですけど、クラス全体が先生の方を向いて、ALTの先生と講師の先生が一生懸命授業をすごく盛り上げてくださっていて、見ていて楽しくなる授業でした。講師の先生なので、1年で異動になってしまって、中学3年生になってから2年生の時のような楽しさがないということで、英語の授業が苦痛だということを話していました。どの教科においてもそうなんですけど、一生懸命わからないところを先生を追いかけて聞きに行っても、忙しいのであとでということと言われるとそこで学習意欲が落ちてしまうというか、聞きたいときに聞けないという状況があるということも確かなようです。

それから、ダンスについてなんですけど、娘に聞くと創作ダンス的なものを少しやるという形で、あまりおもしろくないという話でした。金成小中一貫校になってから、金成小中祭というものがある、小学校1年生から9年生までが縦割り班でチームを作って、よさこいの曲を使って、チームが競い合いながら金成ソーランという踊りを創ります。1年生から9年生までという年齢の幅が広くて最初は戸惑うそうなんですけど、9年生を中心にチームをまとめて、発表の日は、ものすごい、涙が出るようなすばらしい発表だったんです。市長さんにも見ていただきたいと思うくらい、子どもたちのパワーがすごくて、ダンスの授業でなくても、こういう場で子どもたちが一体化して一生懸命やる、本当にすごいなあということを感じています。

それから、補助教員の方がいらっしゃいます。学年が乱れていたクラスが補助教員の先生がいらっしゃることによって、1人1人が落ち着いて授業を受けられるようになったということを知っています。ですから、本当に大事な存在だと思いますので、出来れば、たくさん補助教員の方がクラスに入っただけといいのかなと思います。以上です。

佐藤市長
学校教育課長

では、順番に回答をどうぞ。

白鳥委員さんからの質問でございますが、指導力向上に向けた職務別研修ということで、どうなっているのかということですが、悉皆研修ということで、全てそれぞれ、年齢階層に応じて研修に該当する方全員が受けるという形になってございます。そのため、学校長、園長に対しましても受講できるよう業務調整するように命じているところでございます。

2点目の、Q-U調査、学校満足度調査でございますけど、こちらはアンケート調査でございまして、具体的な不満等について書く中身ではないんですが、いわゆる不満足群というのは、いじめや悪ふざけを受けている可能性があります。集団への適応感が低く、不登校に至る可能性もあるといったような判断がされるところでございます。学校生活における意欲といったような見方の中では、Q-U調査の中では、小学校では、友人関係づくりへの意欲、学習に対する

意欲、学級での活動に対する意欲、それからこれら3つの領域を総合的に見た意欲といったようなことで捉えているところがございます。中学校では、小学校と同じ3つに加えて、教師との関係づくりの意欲、それから、進路の探求・実現への意欲を加えました5つの領域を総合的に見た意欲ということで判断しているところがございます。

続きまして、学力向上の分析はどうしているかについてでございますが、文科省の外部機関のほうでも当然全国的な傾向については研究しているところがございます。各学校につきましても、自校のデータが届きますので、学校独自でこういった傾向にあるのかといったようなことは、自主的に結果分析を行っているところがございます。それに加えまして、栗原市教育委員会の指導主事と教育研究センターの指導主事とで今年の結果等を分析しまして「全国学力・学習状況調査の分析」というものを作りまして、2月の校長会で市内全ての小中学校に配布してございます。こちらの市の分析結果と自校での分析結果を比較しながら、よりわかりやすい授業づくりに役立てていただきたいということで対応しているところがございます。

次に、早坂委員さんの、不登校の要因であります、やはり1番多い不登校の要因といたしましては無気力ということで、何もしたくないというか、生活習慣の乱れ、無気力といったようなものが1番の不登校の要因になっているところがございます。あとは、昼夜逆転の生活とかですので、出来るだけ、けやき教室等において、正しい生活習慣、そういったものを身につけるといことが不登校解消への第1歩なのかなということで捉えているところがございます。

それから、先生に対する信頼といったようなことですが、先生の指導力が学力向上につながるということで、栗原市では教育研究センターの中での研修を中心に、市独自の教員対象研修を展開するとともに、県の教育委員会が主催します研修会等にも積極的に参加しながら、教員の資質を高めるといったようなことを継続していきたいと思っております。実際、学級経営がうまくいっているクラスとか生徒指導に時間を割かない学校というのは学力が高いといったような傾向でございますので、そういったような取り組みも継続させていただきたいと思っております。

それから、ダンスと小中一貫校の関係でございますけれども、小中一貫校の効果につきましては、それぞれの発達段階に応じた教育、そして、役割分担と連携ということで、校長先生のご努力によって素晴らしい成果が上がってきているところがございます。「国際キャリア科」と「栗原ふるさと科」という独自の教育課程を編成しまして、金成小中では小学校1年生から英語活動に取り組んでいます。他の市内の小学校では小学校3年生からですけども、金成小中は小学校1年生からということになってございます。そういったことで国際的な感覚を養うとともに、自分のふるさと栗原を愛する子どもたちを育てるといったような取り組みが為されているところでもあります。

最後に、補助教員についてでございますが、平成18年度から導入してございまして、本来ですと特別支援相当のお子様、ご父兄の同意が得られないということで通常学級にいるということで、そういった特別な支援を要する子どもたちの手助けをするとともに、情緒のお子さんですと、いろいろ、声を出したりとかすることもございますので、周りの子どもたちの学習環境に影響します。そういったことで、継続的に配置を行っているところがございます。毎年度予算要求前に校長先生とのヒアリングを行いまして、次年度どういうふうな子どもがいて、何人位必要なのかというデータをこちらで持って、財政協議を行っております。可能な限り学校の要望に応じていきたいと考えてございます。以上でございます。

佐藤市長 よろしいですか。

白鳥委員 職務別研修なんです、万が一参加できなかった場合でも、別の日にきちんと受けてもらう

という方向でよろしいでしょうか。

亀井教育長 私の方からお答えしたいと思います。一番難しいのが、幼稚園の職員研修会になります。これにつきましては、預かりもあり、ずっと続くものですから、全ての職員が全員参加することは難しい状況にあります。この他に、幼稚園では夏の研修、秋の研修、冬の研修という研修会を教育委員会独自でやっております。これも研究センター等を使ってやっております。園長に対する悉皆研修は全部出てきますけれど、職員に対する悉皆研修は、主任はまだいいですけど、一般教諭を全部集めるとするのは難しい、それで、何回かのうち交替で出してください、という形を取らざるを得ないという状況もございます。その辺がひとつの課題かなと思っておりますが、その辺につきましてはとにかく、研修を受けることによって子どもたちに還元されるというようなこともありますので、多くの先生が参加できるような体制づくりの必要があると思っております。当然だと思います。

佐藤市長 何分の何というのが知りたいんだと思います。全体のうち受けない人は何人いるのか、そういうデータの出し方をしてもらえばわかりやすいと私は思います。

白鳥委員 特に、幼稚園の場合は、今の説明を受けて、園を空けて全員が来られないという実情は分かりますが、それは1回だけの研修でなくて、分けて、委員長さんが言った継続的な研修が必要ということだと思います。全員が受けてもらうという体制を整えていくべきではないかと思えます。それと、それが出来なければ園の代表の先生が研修を受けて、自分の園にフィードバックする、そういう体制、指導が必要ではないかなと思います。

亀井教育長 いろいろな研修に全ての職員が出るということは難しいですが、必ず夏休みは全校会といまして自分の学校の研修があります。その場で、受講した代表の先生が職員に資料を提供してお話しをするということは、幼稚園、小中学校でやっております。それが濃いか薄いかというのは分かりませんが、そういうことを必ずやるようにしていく必要があると思っております。あとは学力向上に関してですが、学校は一生懸命やっているとありますが、家庭の教育も不可欠なものだと思います。それでこれまで教育講演会につきましては、先生を対象にした講演会をこれまでずっとやってきて、学力向上講演会というのは夏休み中の平日やっていたのですが、28年度につきましては、たしか11月20日だったと思いますが、日曜日に、家庭の方々も対象にして、川島隆太先生をお呼びして行う予定です。先生方、保護者もいっしょに聴けるということで働きかけていくことが大切だと思いますので、いろいろな反省を踏まえながらその辺を今計画しているところでございます。

佐藤市長 全体的に、さらにどうぞ。

笠間委員 栗原市のハーフマラソンなんですけど、わたしはエントリーしたものの風邪をひいて出られなかったんですが、あいにくの雨でしたが、たくさんの方がいらっしゃって盛況だったと思います。ここには書いていないのですが、実際みてみると結構応援の方で注意されている方がいっぱいいらっしゃったんですね。スタートのところがごちゃごちゃして、そこは入っていけないのに皆さんいらっしゃったので、その辺が今後の課題かなと思いました。もっと、応援の方がわかりやすいような誘導というのが必要ではないかと思いました。来年は台湾から5人いらっしゃるんですか。

佐藤市長 選手が5人で、応援団を入れると20人くらいですね。

笠間委員 台湾でもマラソン大会のようなものがあるのであれば、栗原市での優勝者が台湾にいけるようなことを考えてもいいかもしれませんね。もし予算的に余裕があればですけど。出来ればこれは1,000人位集めたいんですね。

- 佐藤市長 今年も1,000人は超えたんですが、そのために最後の最後まで大変な努力をしました。
- 笠間委員 規模としては1,000人くらいということですか。
- 佐藤市長 もう少し増やしたい、来年は2,000人とか。
- 笠間委員 サポートする方が大変だと思いますけど。
- 佐藤市長 担当課長どうぞ。
- 社会教育課長 昨年のハーフマラソン大会は第1回ということで反省することが多い大会でありました。大会終了後、実行委員会等で集まりまして、反省事項等も集約してございます。次回大会に向けて、27年度の反省事項を踏まえて第2回大会を開催していく予定であります。全体的に参加人数は昨年は1,000人を超えましたが、定員は1,800人の大会であります。ハーフマラソンだけで1,000人を目指しておりますので第2回は定員に届くような大会に向けて頑張っていきたいと思っております。
- 佐藤市長 1,800人が定員ですか。
- 社会教育課長 はい、ハーフマラソンだけで1,000人です。あとは10キロが200人、5キロが200人、2キロが200人、親子が200人で全部で1,800人です。
- 佐藤市長 今回は800人足りなかったんだね。もっと最初からしっかりやらないと。
- 亀井教育長 実際に1回目の時は立ち上げが遅かったというのが全体的な反省でありました。それで、何回も観光部会等開きました。ポスター等につきましては3月に作成いたしましたので、5月の仙台ハーフマラソン大会の際に各地区のマラソン大会を広報するコーナーがありますので、早め、早めに対応して、出来るだけ多くの方々を参加させたいと思っております。それから、去年は若柳総合支所が工事中だったこともありますが、4月11日に開所式となりますので、その辺がかなり整備されると思っておりますし、その辺を踏まえながらゴール付近は警察の方々の協力をいただいて、少し整理しながらきちんとした形で選手にとって走りやすいようにしたいと思っております。
- 佐藤市長 花の応援団というのがありましてね、社会人なんですけど、学ランを着て、雨の中で「フレイフレイ栗原、フレイフレイマラソン」とやってくれたんです。非常に盛り上がり、おもしろい大会だったなと思っております。いろいろな努力をさせてもらいました。大塚製薬からポカリスエット、ヤマザキパンからランチパック、あとはミニトマト、豚汁、お土産までついて結構楽しい大会でした。来年度も今から盛り上がりたもう間に合わないから今からスタートする、これからも努力していただきたい。台湾からも来られますから今度はマラソンで交流とかいろいろな仕組みをつくっていききたいと思っております。向こうはマラソンが盛んですから、1万人マラソンもやっているようです。皆さん楽しくやっているようですからうまく交流できるかもしれません。その他ありましたらどうぞ。
- 白鳥委員 文化財の保存関係ですが、民俗文化財、神楽とかいろいろあるんですが、高齢化ということで、今年も1団体解消ということもありました。これからそういう事例がどんどん出てくると思われます。行政で何が出来るのか、その保存会にアンケートを取って、支援が必要と望んでいるかどうかを把握して、行政で出来るのであればその支援を行うという考えでどうでしょうか。そういう関係は昔の地区単位で傳承されてきましたが、これからはそれでは難しいと思うんです。ですから、もっと広く、市内から伝統芸能をやってみたいという方々を募って傳承していくのもひとつの考え方でないかと思っております。若い人でもそういう趣味がある人はいると思っております。合併前は鶏舞とか各小学校でやってきました。地区を取っ払って範囲を広げて傳承していくことも大切ではないかと思っておりますので、そういう支援をこれから考えていく時代になってきたかなと思っております。

文化財保護課長 文化財保護課の高橋です。ご指導ありがとうございます。民俗芸能の活動に関しまして、今回委員さんがおっしゃる通り一迫王澤神楽が解散に伴って指定解除という流れになっております。王澤神楽につきましては、「もう解散したので」という状況でしたので致し方ないかなと考えておりましたが、実態調査、アンケートということでお話ありましたが、数年前に実施したケースはあるのですが大分年数も経っていることから28年度はまずアンケート等で実態調査をしましてそれを基に支援の在り方を再度検討していきたいと考えております。地域の中では難しいということもありますので、出来れば学校等の協力を得ながら継続していけるような仕組みづくり等も考えていきたいと思っております。以上でございます。

亀井教育長 2、3日前に文化財保護審議会がございまして私も出席しました。一迫の王澤神楽が指定解除になる、後継者の問題等ありました。やはり私たちがしていかなければならないことで文化財指定があるわけです。それらについては旧町村からあがってきたものをそのまま指定していますが、よく調べないと、いったいどのような形になっているのか再度調査する必要があるということで今課長が申しあげました通り28年度中に後継者問題とか実態を含めて調査していくことが大切だと思っております。その上でどういう形で募集するか、やはり地区を超えるということが必要かもしれません。当然興味ある人がいますので、他の地区からきて神楽を練習しているというケースもありますので、そういう形で今後呼びかけ、その団体の方々と協力をして様々な方法を取りながら伝統を守っていくということが大切でないかと思っております。今後検討していきたいと思っております。

佐藤市長 他にありますか。

佐々木委員長 今回の白鳥委員さんの話と関係するのですが、市のキャッチフレーズを「これからもずっと栗原」としていろいろな施策に取り組んでいるんですが、教育では何が出来るといろいろ考えてみたときに、ふるさとへの愛着とか栗原市の良さをしっかり理解する、そういうことが大切だと私は思います。いろいろ、栗原市を学ぶというのは小学校だと1・2年の生活科ですし、総合学習でいろいろな課題に沿って3年生以上が白鳥委員さんが言ったようなこともやっているんですが、1番中心になるのが3年生と4年生の社会科の授業なんですね。社会科の授業の中で地形とか産業とか歴史とか行政の仕事とか、そういうものをまとめて勉強するんですね。郷土の人材とか文化財とかも含めてやるんですけど、教科書にはその学習テキストがないんですね。宮城県レベルのもの以上はあるんですが何でやっているかという市でつくっているCD-ROMに一定程度の資料は入ってあるんです。いろいろ学校に聞くと、CD-ROMはパソコン室でやるので、堪能な人は授業の中で使えるんですが、パソコン室でなく普通の授業でやると、プリントアウトして拡大したりして構成し直す、それは大変なエネルギーになって、なかなか実際にはこちらで期待するようにはなっていないということで、なおざりにはなっていないんですが、栗原市の学習をしっかりする、そういう手掛かりになるものが弱いと思います。実際は旧町村で「わたしたちの築館町」とか作っている副読本があって、そういうものの中から使えるものを使って学習しているんですね。時期を考えると栗原市は10年経ちまして栗原市の歩みというものもきちんとあります。そういうものも入れられますし、あきる野市交流で出た千葉卓三郎さんのことを中学校2年生になってそのとき知ったりする、そういう風な状態になっているのを改善するために栗原市としてこの辺で新しい「わたしたちの栗原市」という副読本をそろそろ作って学習に供する、そういう時期かなと考えます。その記録本は旧町村の時とかもそうですが、作り方を非常に上手く作れば家庭で読めるし、小学生向けに書いているので写真などもきれいに入って、栗原市全体のまとまりが理解できる、どこで買えるんですかとい

うことで書店に置いてもらったりしたこともあるんですが、そういうのを来年度あたりからでも作って子どもたちが栗原を理解するというものを是非作るべきかなという風に思います。作り方としては今までの記録もありますし、市の記録もありますし、いっぱい写真もありますし、震災の記録もありますし、指導している社会科の教員たちのいろいろ手法等もありますので、具体的な方法はいろいろありますが、是非作ってほしいというような意見でございます。

学校教育課長 それではお答えします。今委員長さんがおっしゃられましたCD-ROM版副読本につきましては、平成18年に市の方で作成したものでございます。今年度平成27年度は、ジオパークの推進室の方で、ジオパークに特化した副読本の作成を行ってございまして、教育委員会でも、学校教育課の指導主事と教育研究センターの指導主事、学校から防災主任が入りまして、副読本を作成、間もなく出来上がってくるころだと思います。今CD-ROMだとコンピュータ室に行ってもやらなければいけないということですが、今度入るタブレットパソコンというのは、コンピュータ室に行ってもパソコンを使うのではなくてコンピュータを各教室に持ってきて使うことが出来ますので、実際そういったデジタル教材を各児童生徒が自分の教室で見ることが出来ます。そういった形で、いかにICTの機器を先生方の工夫によってよりよい授業づくりをしていくかといったようなことを研究センターの方と一しょに研究していきたいというところでございます。小学校に平成28年度に入るタブレットパソコンのソフト関係なんですけど、ドリル教材がございまして、子どもたちが自宅に帰ってからIDとパスワードを入力して自宅のパソコンでサーバーに入っているドリルが実際使用できる、そういう仕組みを28年度に構築してまいります。そういったことでICTを活用しながらふるさと教育といったようなものを進めていきたいと思っております。

佐々木委員長 ジオパークの副読本は非常にいいことだなと思いましたが。電子媒体を使ってそれを活用するというのは非常にいいことなので、私が今日提案しようとしたときに、副読本スタイルでやるのか、或いは電子媒体か…。ジオパークはその一部ですよ。栗原を学ぶ、さっき言った歴史とか行政の仕事とか、10年間の歩みとかそういう全体の栗原を見返すためのものを、電子媒体方式の方がいいのか、あるいは紙媒体がいいのか、そういう辺り、私も自分で判断をしかねたので、副読本という形で提案しました。ジオパークのことは非常にいいので是非活用してほしい、全体の学習の資料ということにすると、どっちが使いやすいのか、あるいは小学生だけでなく中学生も使うし、家庭のおじいちゃん、おばあちゃんも見たりしますね。その辺りを慎重に判断していくと、どっちがいいのか出てくるかと思っておりますので、検討も含めた提案です。

笠間委員 タブレットなんですけど、パスワードを入れれば家のパソコンでも計算が出来るような話だったんですが、今はスマホがあるので、パソコンを持っていない方が結構あると思うんですね。タブレットを家に持ち帰れるような体制というのは、それが出来れば、家で前もって予習できるんですけども、そこまでは行ってないんですか。タブレットは教室だけなんですよ。

学校教育課長 ひとつの学校に子どもの分では44台ということです。その他にサーバー関係とか電子黒板ということでパソコンとつながった黒板、それが各学校に3台ありますので、まだ1人1台まではいっていません。

笠間委員 となると、先ほどの副読本という話ですが、学校でしか見れないという現状ですよ。それを踏まえて検討していただきたいと思っております。

亀井教育長 委員長さんがおっしゃるのもっともだと思います。わたしもそう思います。どういう勉強しているのか家庭で見えないです。やはり親子でもってふるさとのことを話すってことがなか

なか難しい、そういう実態がでてくると思うんです。プリントアウトして持ち帰れる体制をつくっておくとか、そういうことも必要なかと思います。予算的なこともあるし、手作りでも出来るかなと思いますので、その辺につきましてはやはり何冊かは、いちいちCDロムを入れなければ出来ないというのでは役に立つようにして役に立たないということもあると思いますので、検討する必要があるのかなと思います。

佐藤市長 副読本っていくらくらいかかるんですか。冊子にすると。
学校教育課長 CDだけで200万くらいです。

笠間委員 アメリカって教科書を1人1人でなく、学校に置いて持ち帰らないっていうじゃないですか。配布じゃなくて、毎年生徒分だけ作って、授業の時は家に持ち帰っていい、あとは毎年使うようにすれば予算は節約できるんじゃないですか。あとは必要とする学年は家に持ち帰れる、アメリカは教科書は持ち帰らず何十年も使うそうですよ。

亀井教育長 今も、道徳の副読本は置いておいて何年も使うという方法もありますので、その辺も含めて検討していきたいと思います。

佐藤市長 そろそろよろしいでしょうか。それでは、少し前に進みます。次に、次年度の教育展開について説明をお願いします。

教育総務課長 次年度の教育展開ということで、資料2をご覧くださいと思います。目標毎にそれぞれ主な事業についての概要や今年度の予算を掲載してございます。△、○印があるものについては、△については事業の拡充、○については新規事業でございます。拡大につきましては2事業、新規事業につきましても2事業でございます。

資料3につきましては、28年度の教育基本方針でございます。これにつきましては、先月の定例教育委員会においてご承認いただいたものであります。これに伴う関連事業として、その後ろにつけさせていただいております。

以上で次年度の教育展開についての説明とさせていただきます。

佐藤市長 ただいま事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等はありませんか。
「なし」の声あり

9 その他

佐藤市長 その他、事務局から何かありますか。

亀井教育長 私の方から来年度の児童・生徒数等について若干ご説明申し上げたいと思います。現在、市の小中学生の数は、大体4,840人くらいであります。来年度、今の計算では小学校が3,027人、中学校が1,702人ということで、小学校が約100人減、中学校は30人減、130人が今年度より減かなという状況であります。一方、幼稚園につきましては、これまで、2年保育、3年保育等混じって735人でしたが、来年度は1,054人、それだけの園児数になります。若柳よしの幼稚園は今年は196人でしたが、来年度がピークで224人、そのために今増築しているところであります。一方、築館にあります私立の聖マリア幼稚園ですが、来年度在園数が24人でありまして、今後どういう形になるか心配な面があるのかなというところでもあります。それから、預かり保育につきましては、3年保育が入りましたので、今年度は339人でしたけど、来年度は680人が利用する予定であります。放課後児童クラブは、今年は637人でしたが、6年生まで拡大しましたので、783人で、全てそういう支援が充実されておりますので、その辺につきましてもお知らせしておきます。

それから、昨日高校の合格発表がございました。早急に調べたので全て調査したわけではな

いんですが、卒業生が570人であります。570人中市内の高校に入るのが369人、64%という状況でございます、やはり地元の高校に地元の中学生在が進学するという形での中高の連携等を検討していく必要があるのかなと考えます。詳しい分析が出来ましたらまた資料として配布したいと思います。

佐藤市長 ありがとうございます。来年度は教育大綱を策定し、2年目となります。本日いただきましたご意見を生かし、目標達成のために施策を展開してまいりますので、皆様のご指導ご協力をお願いいたします。本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。本日の会議は以上とさせていただきます。

10 閉会

教育総務課長

本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。
それでは皆様ご起立願います。以上をもちまして「第3回栗原市総合教育会議」を終了いたします。

一同「礼」

ありがとうございました。

午後4時55分